

初の福祉ボラ大会

「賀川ハル」の講演会や 4グループの余興楽しむ

第1回福祉ボランティア大会が11月20日、学習室で開催され約40人が参加しました。この催しは〈わ〉福祉部会（加藤勇治部会長・8グループ）が会員の交流と組織の活性化を図ろうと総力をあげて取り組んだ初の試みです。

第1部は、「賀川ハルの生涯に学ぶ」と題した講演会。神戸が生んだ偉大な社会福祉活動家・賀川豊彦の妻だったハルの一生は、「女性として幸せだったのか」「家計を守る大蔵大臣としての資質はあったのか」との視点で、賀川記念館語り部チームの郷肥三・横井幸雄さんが、解説しました。

休憩をはさんで、第2部は4グループのパフォーマンスです。トップは明生園もみじ会。門脇淳子さんの伸びやかな歌声でスタート。歌あり、遊びあり（ボール投げ、野球）のプログラムに、会場も一緒になって楽しみました。一寸奉仕からは銭太鼓の3人娘？が登場。「ソーラン節」などをにぎやかに披露しました。サリーを纏いインドの魔術師に扮して登場したのはクレヨンノ北川章子さん。小咄の嘉野喜代子さんと息を合わせ、会場はミステリアスと笑いの渦に。最後は、あんだんての皆さん。懐かしい拍子木とともに、紙芝居『杜子春』の始まり、始まり〜。植村勝さんの名調子にワクワクしました。



第3部は会員同士の懇談会。どうやって新メンバーをふやすか、に話題が集中しました。それぞれのアイデアを披露しながら、「ボランティアは楽しみながら活動することが大切。それが、長く続ける秘訣ですね」との意見で一致。これまで、一堂に会して交流する機会がなかっただけに、貴重な時間となりました。会場前の廊下には、8グループの活動状況が写真とともに展示され、来場者に福祉部会をアピールしていました。

終わってほっとした様子の加藤部会長は、「現役生の参加が少なく残念だったが、初の試みとしてはまずまずだった。反省点と課題を踏まえ、来年度に繋げていきたい」と話していました。

大会を通して、「ボランティア活動って楽しいよ」「生きがいにも繋がるよ」と、心にズンズン伝わって来ましたが、福祉大会に限らずジョイラックデーへの参加者が減少しているのは何故だろうと、一抹の寂しさを覚えました。（取材：井口久美子 写真：木村成男）＝写真は「あんだんて」の紙芝居

麻雀ボランティア

寄稿

現在、東灘区会のボランティアの中で老人介護施設での麻雀を週1回2時間、仲間と活動している。入所者は麻雀の経験者であるにもかかわらず、当初は牌を積むことも出来ず、あがることも出来なかった。メンバーは90歳代後半の男女、80代後半の男女の4人であった。ボランティアの仕事は、牌を積む、配牌、捨て牌の補助、点数計算、片づけ等すべてであった。

ところが1年たつと麻雀日が待ち待ち遠しくなり、牌を積むことは半分位、配牌は自分の前だけは自分で取り、捨て牌は役を考えながら自分で決め、片づけは自分たちですることが出来るようになった。そして何よりも会話が出来、明るくなっ

てきている。勝った時は看護師とハイタッチしている。

老人介護施設で驚いたことは、男性は会話なし、テレビも見ずに座っているだけ、女性は少数の会話だけであった。ものすごく考えさせる光景であった。クオリティーオブライフとはいえない景色である。また自分の終末を考えざるを得ない景色でもある。

囲碁・将棋の相手をしているボランティア仲間になると「当初は圧勝していたのが、最近は勉強されて負けている」とのことである。

囲碁・将棋・麻雀だけの体験であるが、これからの老人介護施設でのボランティアの役割を教えられたと感じている。

長谷川 博（東灘区会）